

感動一点の場

『遡上』

1970 年ごろ 小川原 脩 画

秋になると、尻別川にも産卵のためにサケが遡上する。北海道各地の風物詩ともいえるだろう。その先で命を繋ぎ一生を終える遡上の旅は、当然の営みとは分かっている、どこか切なさを持って見てしまう。そんなサケの姿を、小川原脩も作品にしている。

小川原は、その光景を淡々と見つめながらも、力強いものと捉えていたことが、大きな目と口、赤みを帯びた体の色、水中で力強く尾鰭を振る、上流へと泳ぐサケの姿から感じ取れる。川底に沈んだものか、川岸の光景を写したものかは分からないが、大きなフキの葉がともに描かれている。フキと体全体を覆う緑は眩しいほどに、また川面の赤も夕日のように鮮やかである。サケが最後に泳ぐ、秋の川は、こういった色彩に包まれているのかもしれない。



文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

—初秋のエゾリス観察—

町内にある百年の森を歩いていると、「カッカッ」という音が聞こえました。目をやると、エゾリスがこちらを見て、大きく尻尾を振っています。聞こえた音はエゾリスの警戒音だったようです。私はそこの倒木や石ころのふりをして、観察することにしました。

やがて警戒を解いたエゾリスはミズナラの木に登り、あちこちの枝先を見回り始めました。実ったドングリが熟しているかを調べながら、熟しているものがあれば食べているのです。一通り木を巡回した後は近くのエゾマツに飛び移り、松ぼっくりを地道にかじります。時折落ちてくるのは鱗片がすべて剥がされた松ぼっくりです。森を歩いていて、エビフライのような、トウモロコシの食べ跡のようなものが落ちていたら、それは彼らに食べられた跡でしょう。そのうちに木から木へと移動してどこかへ行ってしまうましたが、付近には他にもエゾリスの気配がいくつかありました。おそらく彼らは巣とエサ場を往復しているのでしょう。

冬眠しないエゾリスは、秋のうちに冬備えの食糧をたくさん拾う必要がありますが、ドングリやクルミなどが熟して落ちると、その多くはネズミたちが持ち去ってしまいます。ネズミよりも多くとろうと必死のエゾリスは、熟す前から樹上で見回っているのです。

文：上井 達矢（倶知安風土館 生涯学習専門員）

■第4回 ふるさと探訪 「羊蹄山麓に佇む半月湖～紅葉と歴史散策～」

羊蹄山の山麓に、今もひっそりと佇んでいる湖、半月湖。今回は、湖の歴史に思いをはせながら植物と紅葉を楽しみましょう。

講師：村上 尚美 氏（自然ガイドツアー心と～ cocowa ～ 主宰） 日時：10 月 21 日（土） 9 時～ 12 時

集合場所：倶知安風土館 費用：300 円（保険代） 定員：先着 15 名（小学生以上）

申込方法：倶知安風土館へ来館または電話（☎ 22 - 6631）

ふるさと探訪

414 回



▲エゾリス。せわしなく動いてはピタッと止まる

展覧会のお知らせ

■常設展示

「小川原脩展 小川原脩ものがたり」

小川原脩は、明治から平成まで日本の激動の時代を、ひとりの画家として歩きました。本展では、常に新たな芸術潮流を感じ取りながら変容を続けた小川原の画業を、ひとつの物語を読み進めるようにご紹介します。

《『ナルシスのリメイク』を公開中》

1940 年に完成したものの戦争の影響で発表できず、その後塗りつぶされ本人によっては公開されなかった悲運の作品です。

会期：開催中～ 11 月 26 日（日）

■企画展示

「第 59 回麓彩会」

1958 年、小川原脩をはじめとする 8 人の発起人により創設された「麓彩会」。59 回目の本展では、北海道における美術の現況をうかがい知ることのできる展覧会として、地域にゆかりが深く、かつ道内画壇を代表する作家 13 人の作品を小川原脩作品とともに紹介します。

会期：開催中～ 11 月 26 日（日）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン アート探訪〈みて☆きいて〉7

「クリムト～愛と幻想のウィーン」

世紀末を激しく生きたオーストリアの天才画家グスタフ・クリムト。上流社会に漂う退廃的な影を感じ取り、その金箔を散りばめたような作品に思いを込めました。

日時：10 月 14 日（土）14 時～ 15 時

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム 聴講無料

■ミュージアムコンサート

「コンセール・アミ オータムコンサート」

出演：佐藤貢さん（テノール）・丸山みゆきさん（ヴァイオリン）・吉田聖子さん（クラリネット）・塚越由り映さん（ピアノ）・柴瑞穂さん（ピアノ）

札幌で多彩な音楽活動を展開する音楽家グループ「コンセール・アミ」。今年もテノールの佐藤さんを中心に、国内外の美しくも楽しい音楽の世界を聞かせてくれます。

日時：10 月 21 日（土）11 時開演 会場：当館ロビー（無料）

■アート・シネマ館

「黄金のアデーレ～名画の帰還」 2015 年 / 109 分 / アメリカ・イギリス（字幕）

ナチスに略奪されたクリムトの名画の正当な持ち主として名乗り出た 82 歳の女性が、オーストリア政府を相手に返還闘争を繰り広げた実話に基づく感動的な物語。

日時：10 月 28 日（土）14 時～ 15 時 50 分

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム 聴講無料



小川原脩記念美術館 倶知安風土館

☎ 21-4141

☎ 22-6631

開館時間は 9 時～ 17 時
（入館は 16 時 30 分まで）

10 月の休館日
3 日、10 日、17 日、24 日、31 日

美術館から

前は、道内にある隠れ家的美術館のお話でしたが、今回はパリ編です。パリ 9 区の閑静な住宅街に佇むギュスタヴ・モロー美術館。元々が住宅兼アトリエの建物ですので、小さな看板やフラッグに気が付かなければ、通り過ぎてしまうでしょう。モローは、百年以上も前に、神話や聖書の世界を緻密で色鮮やかに、そして妖しいほど幻想的でロマンチックに描き出した人です。その油彩や水彩、デッサンなど膨大な数の作品群が、2 階から 4 階までの壁を埋め尽くし、圧倒するように迫ってきます。モローならではの神秘的な世界に、一人静かにゆったりと浸れるこの美術館、私にとっては、まさにパリの隠れ家的空間なのです。

館長 柴 勤

海と山と田園とーミュージアムロード情報ー

【クローズアップ】西村計雄記念美術館
開館 18 周年記念展

「パリの日本人画家・ニシムラについて」
会期：開催中～平成 30 年 2 月 18 日（日）

■西村計雄記念美術館	0135-71-2525
■有島記念館	0136-44-3245
■木田金次郎美術館	0135-63-2221
■荒井記念美術館	0135-63-1111